# 長谷川たかこの実績（一部抜粋）

みなさんの声を区政へ着実に届けています

## 中国残留帰国者

足立区は中国残留帰国者の居住者数が全国で1，2番を争う多さです。長谷川たかこの議会提案とその取組みにより以下の内容が実現されました。

1．帰国者の方が編集した中国残留帰国者情報誌「故郷」が定期的に作成・発送されています。
2．地域の皆さんとの交流会（区内の自治町会が中心となって実施）…鹿浜・梅田・青井・東保木間・保木間・中央本町などで実施。
3．中国語版「あだち防災マップ＆ガイド」が150世帯に郵送されました。
4．中国残留帰国者向けの防災訓練を実施（中央本町にて）

## 病児保育が東部地域病院に開設

長谷川たかこの提案により、2019年2月「病児保育」が東部地域病院で開設されました。保育施設や幼稚園に通所している生後6か月から、区内に住所を有する小学3年生までの児童を対象として、2千円（昼食、おやつ、飲み物は各自持参）で利用できます。

## 不妊症サイト：獨協医科大学こうのとりラーニングの開設

妊活は女性だけでなく、男性も積極的な協力が必要です。男性にも不妊症に関する知識を得てもらうために「獨協医科大学こうのとりラーニング」を2017年7月足立区のHPより活用できるようにしました。妊娠にまつわる基礎知識をこのラーニングで取得して、夫婦ともに男性の身体や不妊のことについて十分な知識を得ながら、妊活を乗り切っていきましょう。

## 妊産婦や乳児を守る防災対策

胎児・乳児と妊産婦の生命は一体であり、母子に配慮した防災対策は子どもを守る最大の対策につながります。議会提案と取組みで以下が実施されます。

1．「あだち防災マップ＆ガイド」「あだち子育てガイドブック」に「妊産婦の防災ハンドブック」が盛り込まれることになりました。
2．妊産婦・乳児専用の救護所の設置がされます。
3．ハイリスクの妊産婦・乳児の搬送先として、東京女子医科大学東医療センターとの連携が図られます。
4．他区の医師会（産婦人科医）や東京都助産師会との連携が図られます。

## 「足立区あんしん子育てナビ」が拡充

2018年から足立区版「あんしん子育てナビ」の機能拡充を実現させました。予防接種スケジュールカレンダー表示や赤ちゃん成長記録が追加され、妊娠期・子育て期の疑問などを解決できるサイトにしました。

## 足立区役所本庁舎：音声誘導装置導入

長谷川たかこの政策提言により、2013年から足立区役所本庁舎玄関前に目の不自由な方のための音声誘導装置が設置されました。目の不自由な方は、専用の受信機で音声ガイドを受けることにより、現在、自分がどこにいるのか、どちらに向かって歩けばいいか、知ることができます。

## 教科書のユニバーサルデザイン化が実現

足立区の取組みの中で、区内小中学校の現場の先生の色覚障がい児に対する認知度が低いこと、また、学校内での取組みがあまり進んでいないことなどや教育分野での取組みの重要性を何度となく議会で提案をしているものの、一自治体では、教育分野での具体的な取組みに限界を感じました。2011年、当時の笹木竜三文部科学副大臣のお取り計らいで教科書会社との会談が成功。直接、教科書会社に対し、問題提起や提案をさせて頂きました。長谷川たかこのこの取組みにより、現在ではほとんどの教科書会社がカラーユニバーサルデザインを導入しています。

## ファミリー学級で母乳育児指導が開始されました

足立区での母乳育児の指導は毎年２回のみ。長谷川たかこの提案により2017年４月より、妊婦さんたちが受講するファミリー学級で母乳育児の指導が導入されました。今後もさらなる拡充を求めていきます！

## MR ワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）

2017年長谷川たかこの度重なる議会提案により、未接種児へのフォローアップ制度として、麻疹・風疹混合ワクチンを無料で2回接種可能としました。足立区は都内ワースト1でしたが、このことによりトップクラスの制度へと引き上がりました。『区内在住、麻しんまたは風しんにかかったことのない2歳～高校3年生相当の年齢を対象に、2回を限度に任意接種の公費負担を行う』ことが実現しました。

## 子どもの養育支援

長谷川たかこの提案により、2015年4月より離婚を考えている区民に対し、足立区として公益社団法人家庭問題情報センター（FPIC）のチラシ3種類（養育費・面会交流の内容のパンフレット）を配布。同年、長谷川たかこが弁護士と共に協議し、養育費や面会交流の取り決めを促す「養育プラン」を作成し、離婚届が提出された際に窓口でこれらを直接手渡しし、子どもの利益を最大限優先した行政主導の支援が始まっています。

## 怒鳴らない子育て講座が導入されました

子どもに伝わる表現方法のスキルを学ぶ事業を通じて、親も子供も成長しながら全ての子ども達が心豊かに育つよう、子育てスキルを行政が提供する仕組みを提案し、2015年から足立区で導入されています。

## 東京藝術大学名誉教授 六角鬼丈先生デザインの公衆トイレ ファイブベインズへの刻銘

2016年12月綾瀬駅前の東綾瀬公園・ハト公園のトイレ「ファイブベインズ」に作者と由来等が書かれた看板の設置を求め実現しました。

## 都市農業公園のレンタサイクル導入

区の担当部署と協議し、放置自転車の有効活用について検討。長谷川たかこの提案で、2014年4月から区が回収した引き取り手のない放置自転車を活用して都市農業公園を起点としたレンタサイクルの事業が新設されました。

## 綾瀬東口自由通路の通行マナー

綾瀬駅東口の自由通路を自転車に乗ったまま通過する人が多く、大変危険とのお話しを受けて、地元の方と相談をし、区の担当者と協議した結果、鉄道会社 と足立区が協力し、ストップマークを付けてもらいました。みんながマナーを守り、周りの人への気遣いが出来る、注意書きの看板すら要らなくなる街をつくっていきたいと思います。

## 綾瀬駅前イトーヨーカ堂＆東急ストアー駐輪場の設置

綾瀬駅前イトーヨーカ堂の駐輪場に2008年11月にラックが付きました。これも長谷川たかこの取組みの一つ。

以前はイトーヨーカ堂前の歩道に駐輪している自転車がたくさんはみ出していて、歩行の際に大変危険であるとの意見がたくさん寄せられていました。土木部の担当課長とも相談をさせて頂き226台のラックを取り付け、駐輪場が整理されました。また、綾瀬の東急ストアーの自転車駐輪場のラックも同様です。

## 公契約条例

長谷川たかこの度重なる政策提案により、2013年、公正、公平な入札・契約制度を確立し、安全かつ良質な事務、事業の執行を確保し、地域経済の活性化と区民福祉の向上に寄与することを目的とした公契約条例が制定されました。

## 六町駅前「安全安心ステーション」設置に向けて

地元商店会、自治会・町内会など地域の皆さんの防犯活動の拠点づくりを検討して頂くよう、2012年の本会議で提案。その後、2017年3月から交番に代わる防犯機能を有する施設「安全安心ステーション」の設置に向けた検討を足立区と地域の町会を中心に開始しています。

ご意見・ご要望は…

**長谷川たかこ**

活動や政策の詳細はホームページをご覧ください

https://takahase.weblogs.jp

長谷川たかこの政策2019

ご意見・ご要望はＥメールへ

info@takahase.com

このレポートは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構*のアドバイスのもと、色覚の個人差を問わずご覧いただけるようカラーユニバーサルデザインに配慮して作成しました。（ロゴやイラストは対象外）
*カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）とは、色覚バリアフリー/カラーユニバーサルデザインへの配慮を啓発する活動を行うことを目的に2004年に設立されたNPO法人です。

足立区議会議員

# 長谷川たかこ

2015-2019 総まとめ 区議会レポート

プロフィール

衆議院議員　元秘書 / 1973年3月16日生まれ / 中央大学法学部卒 / 青山学院大学大学院法学研究科修士課程修了
0，2歳児、大学生（長女4年生、次女1年生）、4人の子育て真っ最中 / 夫（弁護士）

## 制度の谷間に落ちて悩む方々を救いたい。

足立区議会議員として3期12年。

「誰もが安心して暮らせる街づくり」「みんなにやさしい街づくり」をお約束しました。

おかげさまで様々な政策提案が施策に盛り込まれ、全国トップレベルの取組みとなっているものもあります。私は常々、弱い立場の人に光が当たる政治が「やさしいまち」をつくると考えています。言いっぱなしで終わらせず、実現させることこそ政治の役割。その本分と領分をしっかりとわきまえ、これからも全力で取り組んで参ります。

制度の谷間に落ちて、生きづらさを感じている方はいませんか？

悩み苦しむ方々に少しでも手をさしのべる政治で、これからも全国のお手本になる足立区をめざして頑張ります。

長谷川たかこ

## Manifesto Awards 早稲田大学マニフェスト研究所 マニフェスト大賞

長谷川たかこの政策提言が全国でトップレベルの取組みとして進んでいます。

### 【2010年】第５回 最優秀政策提言賞受賞

**「行政・街づくりのカラーユニバーサルデザインの導入」**

全国で男性の20人に一人、女性の500人に一人が遺伝による色覚障がいをもつとして、また高齢者が白内障などの疾患で色の判別が困難になっている方々に対する色遣いの配慮を求めて、公共施設の案内表示や区が発行する印刷物について「カラーユニバーサルデザイン」の導入を提言。その後、区役所職員と協議を重ねて、専門家による講演やNPOとの協議事業などを通じて具体的には、区の公共施設の案内表示や区の広報紙などの印刷物や新設された区立小中学校の案内表示などが色遣いに配慮されたものとなりました。これに伴う財政的負担はありません。そのため、長谷川たかこが提案する施策が次々と実現し、足立区議会議員1期目4年の間で、長谷川たかこが提案した『行政・街づくりのカラーユニバーサルデザインの導入』が全国でトップレベルの取組みとなり、第5回マニフェスト大賞で最優秀政策提言賞を受賞し、社会的にも認められるまでになりました。

### 【2017年】第12回 優秀政策提言賞受賞

**発達障がい支援施策『生きづらさを抱えている人に対する支援事業の構築』**

長谷川たかこが提案した発達障がい支援施策は、①普及・啓発②相談支援③発達支援④就労支援⑤家族支援の5つ。長谷川たかこの政策提言とその働きかけで、発達障がい特性がある子どもを持つ親同士で相談や情報交換をおこなう当事者支援活動「ペアレントメンター」を設立し、東京23区で初の事業化として成功しました。前回受賞したカラーユニバーサルデザインも、今回受賞した知的障がいを伴わない発達障がいも目に見えない障がいです。そのため理解されにくく、全国的にも支援制度が非常に乏しいのが実態です。このように見落とされていた政策やきめ細やかな提案を実現することで、足立区を全国で一番やさしい区にしていきます。

### 【2018年】第13回 優秀政策提言賞 ノミネート認定

**「妊娠・出産・育児等と働き方の両立に関する支援制度の確立」**

女性であるがゆえの女性軽視、マタニティハラスメント、モラルハラスメント、パワーハラスメントを足立区議会に問題提起したことで、足立区議会で「議会活動と育児等の両立に関する部会」が2018年3月に発足。7回開催され7月に議論がまとまり、全国初「議員の妊娠・出産・育児等と議会活動の両立に関する支援制度の確立」が足立区議会で採択され、2018年9月1日施行となりました。

そして、今回、足立区議会改選後の2019年6月より『文書質問』が導入されます。委員会の中で、出産や介護、病気などで議会に出席できない場合の対応策として、表決権の在り方や文書質問などが行えるよう制度の設立を強く求めました。その結果、2019年６月から、会期中、議員一人につき年1回、文書質問を行うことができることとなりました。

議会こそが模範となって社会をリードすることが必要です。より開かれた民主主義のツールとしての議会づくり、性差によらず能力が発揮できる社会の実現、そして、全ての母子の命や健康が守られる社会の実現を求めて、長谷川たかこは足立区議会の中から、これからも全力で改革をして参ります。

# 声なき声を区政へ。

# 私は実績で勝負する。平成も、令和も。

～人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ足立区を～

## ～長谷川たかこの想い～

私は2016年第3子の出産をし、2018年の9月に第4子を出産。2016年の出産直後には、羊水塞栓症と弛緩出血を発症し、4.4ℓもの大量出血をおこし、生死の境をさまよいました。『羊水塞栓症』の発生頻度は、2万人～3万人に1人の割合で非常に珍しいもので、発症すると妊婦は60%～80%の確率で死に至ります。年間、妊産婦は50人程亡くなっていますが、その中で約3分の1がこの病症で死亡しているそうです。

母体救命搬送により病院に到着した際には、医師から家族に「死ぬかもしれない」との宣告がありました。すぐに、10人分の 輸血が行われ、EICUの集中治療室で治療を受け、私は高度な医療技術で命をつないで頂きました。そして、第4子となる今回の出産では、分娩後のリスクに即時 対応できる医療機関で出産をしました。第4子の出産では、陣痛から分娩まで約20時間となる長丁場でしたが、『命を懸けて大きな仕事を果たした』という達成感と自分が生かされているという『生きていること』に私なりの使命感を感じております。

長谷川たかこはこの足立区で妊娠・出産・育児等を行いながら、区議3期12年の中で、足立区全域を歩きまわり、皆様に寄り添いながら様々な支援施策の構築を考え、その政策実現をしてきました。これからも、様々な状況にある方々の声を区政に届け、そのお声を糧とした政策を実現し「足立区に集う皆が安心して暮らせるやさしい足立区を」全力でつくっていきます。

## 子育てが楽しい、楽になった、もう一人産みたい

～そんな足立区をつくります～

### ◆出産後、お母さんの身体の負担はピークに！

出産後は母体の出血, 感染、うつなどの発症率が高く、産後の身体の回復は平均して6週間かかることが分かっています。この期間は妊娠中に胎盤から分泌されていたホルモンが急激に減少することにより、心理状態の変化が最も大きく、育児に不安を持つのもこの時期が一番多いと言われています。出産後の女性は、心身や生活そのものが大きく変化するため、出産後をどのように過ごすかによって、その後の育児や家族の生活が変わってきます。出産で疲れた体をほとんど労わることがないまま、お母さんたちは24時間の育児が始まります。出産直後からはじまる2～3時間おきの授乳や抱っこ。出産で疲労した身体を十分に労わらずに赤ちゃんのお世話を24時間続け、育児に不安を抱きながら心身のバランスを崩してしまうお母さんたちが多くいるのが現状です。

ご存知ですか？

## 足立区の子育て応援施策は 23 区でワースト1。

### ◆足立区版『子どもと家族のための切れ目ない家族支援』をつくります！ 安心して生み育てられる『実感』から、第２子以降を。

国や東京都の補助事業を足立区以外の東京22区のお母さんたちは受けているにもかかわらず、唯一、足立区だけが国や東京都が少子化対策として打ち出している補助事業に一向に手を挙げようとせず、足立区の妊産婦のお母さんだけがその恩恵を全く受けていません。

少子化対策は、国はもとより東京都も同様に最重要政策課題としている中で、ひたすらハイリスクの妊産婦のみを対象とする施策を足立区の目玉のようにしているのに甚だ違和感があります。そこで、長谷川たかこは安心して子どもを産み育てられる環境の整備を全力で促進していきます！

- 出産を経験する足立区の全てのお母さんが、足立区発行の補助券で他区にある『産後ケア』の支援を十分に受け、心身を休めて安心してゆったりと育児技術を身に付けることができるよう利用料の一部を助成する事業を早急に働きかけます。
- 東京ゆりかご事業を活用した1万円の育児パッケージでの洋服やおもちゃ等の現物給付
- 国や東京都が示すフィンランドのネウボラを模倣した、妊婦、母親と胎児、乳幼児のリスク予防を目的とした母子に対するマンツーマンのサポート
- 乳幼児たちの発達や母子愛着が健全であるかどうか、生育環境に大きな影響を及ぼす家族関係の状況といったデリケートな側面をサポートする支援体制

長谷川たかこは、これらを整備するよう足立区行政に強力に働きかけ、足立区の全妊婦を対象に早急に提供し、母親自身がこの足立区でもう一人産み育てたいと思える施策を実現していきます！

## 自分らしく生きることができる足立区をつくる

～2018年足立区議会第4回定例会での政策提言～

### 提案 がん患者、がん体験者、そしてそのご家族が必要と考える支援を進めていきます

#### ◆問題はがんを患ってから「いかに生きるか」そして「いかに支えていくか」

- 足立区「がん対策アクションプラン」「がん対策推進条例」の制定を求め、総合的ながん対策の推進を求めていきます。

#### ◆長谷川たかこは、足立区版マギーズ東京を目指す！

2016年江東区に「マギーズ東京」が新設されました。がんに悩む人が、不安をやわらげるカウンセリングや栄養、運動の指導が受けられ、仕事や子育て、助成金や医療制度の活用についてなど生活についても相談をすることができます。

- 看護師、心理士、栄養士などの専門家が揃う相談窓口を設けて、リハビリテーション支援のほか、外見の変化に対するアピアランス支援なども対応できる施設をこの足立区にも創るよう強力に区行政に働きかけていきます。

## 支え合いながら安心して暮らせる足立区をつくる

～2019年3月予算特別委員会などでの政策提言～

### 提案 個々人や家族の特性に応じた区民サービスを

#### ◆中国残留帰国者が集える場所を働きかけ

- 年齢的にも高齢者の皆さま方のため純粋に日本語の学習というよりも、当人のケアや周囲の人とのコミュニケーションなどを目的とした、集える場を区内に増やしていくよう積極的に区に働きかけていきます。

#### ◆ごみ戸別訪問収集事業の条件緩和を要望

核家族化が進む中、地域、家族とのつながりが希薄になっている高齢者の孤独死や孤立死が社会問題化している中で、訪問してごみを収集することは、安否確認にもなり、安心・安全な生活の確保にもつながります。

- そこで、ごみ戸別訪問収集の対象者の枠を広げ新規で広く募集を開始するよう、区に求めていきます。

## 魅力ある足立区をつくる ～2019年3月予算特別委員会などでの政策提言～

### 提案 弱い立場の人でも生活に困らない地域に

#### ◆買い物弱者に多様な交通手段を

足立区には、交通手段がないと買い物が難しい地域が数か所あります。近所に日用品を取り扱うスーパーがない地域では大きな負担となっています。

- 足立区が企業と連携をすることで、この問題を解決したいと思います。例えば区有地（学校統廃合跡地など）などに商業施設を誘致するよう、区行政に働きかけていきます。
- 交通過疎地にコミュニティバスを走らせ、多様な人の移動を支える交通環境をつくっていきます！

### 提案 災害時、誰もが助かる足立区をめざす

#### ◆河川の堤防決壊対策

被害を最小限に防ぐためにも、自治体が発令する「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」などの発令のタイミングが重要です。

- 避難指示の分かりやすく具体的な数値を決め、柔軟に運用できる発令基準の策定を求めていきます。
- 要援護者や車などの移動手段を持ち合わせていない人に対する避難先として、民間マンションの階段や踊り場、屋上などを開放してもらうよう働きかけ、区外への緊急時の避難場所の確保も求めていきます！

### 提案 歩いて楽しい足立区をつくる

#### ◆エリア毎の街づくりで魅力アップ

- 綾瀬や西新井地区に、図書館を新設するよう働きかけていきます。
- 綾瀬の旧区民事務所跡地に保健所の移設、マリアージュ跡地にみんなが憩えるレストラン街やホールの設置を求めていきます。
- 梅島、竹ノ塚、千住、江北エリアや花畑、六町、北綾瀬では、歩いて楽しい足立区となるよう、回遊性の確保や区有地を活用した賑わいある拠点づくりなど、多角的な視野で魅力的な街のデザインを提案し、区に働きかけていきます。

## 安心して子育てができる足立区をつくる ～2019年3月予算特別委員会などでの政策提言～

### 提案 子ども医療費を0～18歳まで無料化めざす

#### ◆子どもたちにやさしい足立区を

季節の変わり目や、ちょっとしたきっかけで子どもたちは何かと体調を崩しやすいもの。中学生までは医療費が無料だったのに、高校生になった途端、そのたびに医療機関に支払うお金は、大きな出費です。子どもたちが中学生から高校生になってくると、子どもたちの毎月の学費や塾代・お稽古代、家のローンや水道光熱費、食費代などで親御さん達にとっては本当に毎日がいっぱいいっぱいの生活になってくるかと思われます。

世の中の親御さん達は我が子をしっかりと育てるために、先ずは我が身の衣食住のどこかを削ってやりくりをし、毎日を家族のために懸命に頑張って過ごしていらっしゃるかと思います。

#### ◆0歳から18歳までの子どもたちの医療費を無料にして入院時の食事代も無料に！

- 現在の『子ども医療費』を拡充し、0歳から18歳までの子ども医療費を無料にし、入院した際の食事代も無料にしていきます！

### 提案 不登校の子どもたちに対する支援を進めています

#### ◆小中学生の不登校者支援について

足立区の不登校者数の過去10年間の経年変化を見ると、平成17年度小中学生の不登校者数は436名（小学生91名、中学生345名）に対し、平成28年度では1078人（小学生265名、中学生813名）と1000人を超えており、過去最多です。不登校になった理由としては、無気力、不安など情緒的混乱やいじめを除く友人関係をめぐる問題であったり、親子関係をめぐる問題、中学生では学業の不振も増加傾向です。しかし、それ以外にも、発達障がい特性の知識が乏しい教諭による指導を受けたことで、不登校に陥ってしまった児童生徒がいます。

◆多様な問題を抱えた子供たちに対する、きめ細やかな支援が必要

・発達障がい児・者支援の専門家と教育委員会が連携をし、不登校対策マニュアル作成の再考や特別支援教育の現場指導としての教諭に対する研修会の開催を行うよう強く求めていきます。

・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置拡充とアウトリーチ型の家族支援を実施していきます。

◆不登校の子ども達の学習の場を提供しよう！

現在、民間のフリースクールの平均額は入会金では5万3千円、授業料に関しては月3万3千円です。

・不登校の家庭にいち早くフリースクールの情報を提供し、フリースクールの学費の一部を援助するなどの学習支援を強く区に求めていきます。

### 提案 高精度測定機導入 弱視の早期発見に

#### ◆3歳児健診で見逃される弱視問題

全国的にも、3歳児健診の視覚検査で異常なしと言われた子ども達が小学校入学前後の健診で弱視が見つかるケースが相次いでいます。

子どもの視力は1歳で0.2前後、4歳5歳で1.0に達するといわれており、ほぼ6歳児までに完成するとされています。3歳児健康診査において異常が見逃されると治療が遅れ、十分な視力が得られなくなります。視覚感受性期は6～8歳くらいまでで、それ以降は治療には反応せず、一生弱視となってしまいます。目を細めたりして見てわかる症状もありますが、症状が何もない場合も多く見受けられ、親も異常に全く気付きません。3歳児健診での家庭で行う視力チェック（ランドルト環）の簡易キットのみでは、弱視を見逃してしまいます。

足立区の現在の制度を補完する機能としてオートレフラクトメータを用いた高精度な視力検査を3歳児健診で行い、弱視を未然に防ぐ取組みを早急に行うよう、区行政に強力に働きかけていきます！

### 提案 医療的ケア児者・家族支援につとめる

全国的にみると平成27年度　約1.7万人、人工呼吸器児の人数は約3千人とされています。

#### ◆医療的ケア児の家族支援

医療的ケア児の親御さんからは、家族が休めない（親が疲労困憊状態）、相談するところがない、地域に居場所がない（ベビーカーで行けて話せる場所がない）との声があがっています。

### 提案 区役所本庁舎に一時託児施設を要望

#### ◆一時保育の整備を進めます！

現在、保育園の待機児童問題が全国的にも喫緊の課題の中、夫婦共働きでも、お互いに仕事の働き方を工夫し見直す事で、急を要するときには一時保育を活用しながら、自分たちの力で家庭保育をしている家庭も少なくはありません。

また、月齢が低ければ低いほど一時保育の枠がなく、0歳児は1日一人しか預からない園もありま

- 医療的ケア児者の親に対するレスパイト事業を区として早急に立ちあげるよう求めていきます。
- 東京女子医科大学東医療センターで一貫した支援ができるよう、アウトリーチ型の在宅医療支援と子どもが就学した際の学校現場での子どもの看護管理ができる体制を整備するよう強く働きかけていきます。

す。実質、制度があっても利用できない状態です。

- 月齢が低い乳幼児に対応できる全ての認可保育園で、生後57日目以降の乳幼児の一時保育を整備するよう求めていきます。
- 本庁舎北館に一時保育・託児所を整備するよう働きかけます。
- 本庁舎内にある既存のキッズコーナーに保育士の配置を求めていきます。

足立区議会議員

# 長谷川たかこ

## 2015-2019 総まとめ 区議会レポート

プロフィール

衆議院議員　元秘書 / 1973年3月16日生まれ / 中央大学法学部卒 / 青山学院大学大学院法学研究科修士課程修了
0, 2歳児、大学生（長女4年生、次女1年生）、4人の子育て真っ最中 / 夫（弁護士）

## 制度の谷間に落ちて悩む方々を救いたい。

足立区議会議員として3期12年。

「誰もが安心して暮らせる街づくり」「みんなにやさしい街づくり」をお約束しました。

おかげさまで様々な政策提案が施策に盛り込まれ、全国トップレベルの取組みとなっているものもあります。私は常々、弱い立場の人に光が当たる政治が「やさしいまち」をつくると考えています。言いっぱなしで終わらせず、実現させることこそ政治の役割。その本分と領分をしっかりとわきまえ、これからも全力で取り組んで参ります。

制度の谷間に落ちて、生きづらさを感じている方はいませんか？

悩み苦しむ方々に少しでも手をさしのべる政治で、これからも全国のお手本になる足立区をめざして頑張ります。

長谷川たかこ

# 声なき声を区政へ。

Manifesto Awards 早稲田大学マニフェスト研究所

## マニフェスト大賞

長谷川たかこの政策提言が全国でトップレベルの取組みとして進んでいます。

### 【2010年】第5回 最優秀政策提言賞受賞

**「行政・街づくりのカラーユニバーサルデザインの導入」**

全国で男性の20人に一人、女性の500人に一人が遺伝による色覚障がいをもつとして、また高齢者が白内障などの疾患で色の判別が困難になっている方々に対する色遣いの配慮を求めて、公共施設の案内表示や区が発行する印刷物について「カラーユニバーサルデザイン」の導入を提言。その後、区役所職員と協議を重ねて、専門家による講演やNPOとの協議事業などを通じて具体的には、区の公共施設の案内表示や区の広報紙などの印刷物や新設された区立小中学校の案内表示などが色遣いに配慮されたものとなりました。これに伴う財政的負担はありません。そのため、長谷川たかこが提案する施策が次々と実現し、足立区議会議員1期目4年の間で、長谷川たかこが提案した『行政・街づくりのカラーユニバーサルデザインの導入』が全国でトップレベルの取組みとなり、第5回マニフェスト大賞で最優秀政策提言賞を受賞し、社会的にも認められるまでになりました。

### 【2017年】第12回 優秀政策提言賞受賞

**発達障がい支援施策『生きづらさを抱えている人に対する支援事業の構築』**

長谷川たかこが提案した発達障がい支援施策は、①普及・啓発②相談支援③発達支援④就労支援⑤家族支援の5つ。長谷川たかこの政策提言とその働きかけで、発達障がい特性がある子どもを持つ親同士で相談や情報交換をおこなう当事者支援活動「ペアレントメンター」を設立し、東京23区で初の事業化として成功しました。前回受賞したカラーユニバーサルデザインも、今回受賞した知的障がいを伴わない発達障がいも目に見えない障がいです。そのため理解されにくく、全国的にも支援制度が非常に乏しいのが実態です。このように見落とされていた政策やきめ細やかな提案を実現することで、足立区を全国で一番やさしい区にしていきます。

### 【2018年】第13回 優秀政策提言賞 ノミネート認定

**「妊娠・出産・育児等と働き方の両立に関する支援制度の確立」**

女性であるがゆえの女性軽視、マタニティハラスメント、モラルハラスメント、パワーハラスメントを足立区議会に問題提起したことで、足立区議会で「議会活動と育児等の両立に関する部会」が2018年3月に発足。7回開催され7月に議論がまとまり、全国初「議員の妊娠・出産・育児等と議会活動の両立に関する支援制度の確立」が足立区議会で採択され、2018年9月1日施行となりました。

そして、今回、足立区議会改選後の2019年6月より『文書質問』が導入されます。委員会の中で、出産や介護、病気などで議会に出席できない場合の対応策として、表決権の在り方や文書質問などが行えるよう制度の設立を強く求めました。その結果、2019年６月から、会期中、議員一人につき年1回、文書質問を行うことができることとなりました。

議会こそが模範となって社会をリードすることが必要です。より開かれた民主主義のツールとしての議会づくり、性差によらず能力が発揮できる社会の実現、そして、全ての母子の命や健康が守られる社会の実現を求めて、長谷川たかこは足立区議会の中から、これからも全力で改革をして参ります。

# 私は実績で勝負す

## ～長谷川たかこの想い～

私は2016年第3子の出産をし、2018年の9月に第4子を出産。2016年の出産直後には、羊水塞栓症と弛緩出血を発症し、4.4ℓもの大量出血をおこし、生死の境をさまよいました。『羊水塞栓症』の発生頻度は、2万人～3万人に1人の割合で非常に珍しいもので、発症すると妊婦は60%～80%の確率で死に至ります。年間、妊産婦は50人程亡くなっていますが、その中で約3分の1がこの病症で死亡しているそうです。

母体救命搬送により病院に到着した際には、医師から家族に「死ぬかもしれない」との宣告がありました。すぐに、10人分の 輸血が行われ、EICUの集中治療室で治療を受け、私は高度な医療技術で命をつないで頂きました。そして、第4子となる今回の出産では、分娩後のリスクに即時 対応できる医療機関で出産をしました。第4子の出産では、陣痛から分娩まで約20時間となる長丁場でしたが、『命を懸けて大きな仕事を果たした』という達成感と自分が生かされているという『生きていること』に私なりの使命感を感じております。

長谷川たかこはこの足立区で妊娠・出産・育児等を行いながら、区議3期12年の中で、足立区全域を歩きまわり、皆様に寄り添いながら様々な支援施策の構築を考え、その政策実現をしてきました。これからも、様々な状況にある方々の声を区政に届け、そのお声を糧とした政策を実現し「足立区に集う皆が安心して暮らせるやさしい足立区を」全力でつくっていきます。

## 子育てが楽しい、楽になった、もう一人産みたい

### ～そんな足立区をつくります～

#### ◆出産後、お母さんの身体の負担はピークに！

出産後は母体の出血, 感染、うつなどの発症率が高く、産後の身体の回復は平均して6週間かかることが分かっています。この期間は妊娠中に胎盤から分泌されていたホルモンが急激に減少することにより、心理状態の変化が最も大きく、育児に不安を持つのもこの時期が一番多いと言われています。出産後の女性は、心身や生活そのものが大きく変化するため、出産後をどのように過ごすかによって、その後の育児や家族の生活が変わってきます。出産で疲れた体をほとんど労わることがないまま、お母さんたちは24時間の育児が始まります。出産直後からはじまる2～3時間おきの授乳や抱っこ。出産で疲労した身体を十分に労わらずに赤ちゃんのお世話を24時間続け、育児に不安を抱きながら心身のバランスを崩してしまうお母さんたちが多くいるのが現状です。

ご存知ですか？

## 足立区の子育て応援施策は 23 区でワースト1。

### ◆足立区版『子どもと家族のための切れ目ない家族支援』をつくります！ 安心して生み育てられる『実感』から、第２子以降を。

国や東京都の補助事業を足立区以外の東京22区のお母さんたちは受けているにもかかわらず、唯一、足立区だけが国や東京都が少子化対策として打ち出している補助事業に一向に手を挙げようとせず、足立区の妊産婦のお母さんだけがその恩恵を全く受けていません。

少子化対策は、国はもとより東京都も同様に最重要政策課題としている中で、ひたすらハイリスクの妊産婦のみを対象とする施策を足立区の目玉のようにしているのに甚だ違和感があります。そこで、長谷川たかこは安心して子どもを産み育てられる環境の整備を全力で促進していきます！

- 出産を経験する足立区の全てのお母さんが、足立区発行の補助券で他区にある『産後ケア』の支援を十分に受け、心身を休めて安心してゆったりと育児技術を身に付けることができるよう利用料の一部を助成する事業を早急に働きかけます。
- 東京ゆりかご事業を活用した1万円の育児パッケージでの洋服やおもちゃ等の現物給付
- 国や東京都が示すフィンランドのネウボラを模倣した、妊婦、母親と胎児、乳幼児のリスク予防を目的とした母子に対するマンツーマンのサポート
- 乳幼児たちの発達や母子愛着が健全であるかどうか、生育環境に大きな影響を及ぼす家族関係の状況といったデリケートな側面をサポートする支援体制

長谷川たかこは、これらを整備するよう足立区行政に強力に働きかけ、足立区の全妊婦を対象に早急に提供し、母親自身がこの足立区でもう一人産み育てたいと思える施策を実現していきます！

## 安心して子育てができる足立区をつくる ～2019年3月予算特別委員会などでの政策提言～

### 提案 子ども医療費を 0～18歳まで無料化めざす

#### ◆子どもたちにやさしい足立区を

季節の変わり目や、ちょっとしたきっかけで子どもたちは何かと体調を崩しやすいもの。中学生までは医療費が無料だったのに、高校生になった途端、そのたびに医療機関に支払うお金は、大きな出費です。子どもたちが中学生から高校生になってくると、子どもたちの毎月の学費や塾代・お稽古代、家のローンや水道光熱費、食費代などで親御さん達にとっては本当に毎日がいっぱいいっぱいの生活になってくるかと思われます。

世の中の親御さん達は我が子をしっかりと育てるために、先ずは我が身の衣食住のどこかを削ってやりくりをし、毎日を家族のために懸命に頑張って過ごしていらっしゃるかと思います。

#### ◆0歳から18歳までの子どもたちの医療費を無料にして入院時の食事代も無料に！

- 現在の『子ども医療費』を拡充し、0歳から18歳までの子ども医療費を無料にし、入院した際の食事代も無料にしていきます！

### 提案 不登校の子どもたちに 対する支援を進めています

#### ◆小中学生の不登校者支援について

足立区の不登校者数の過去10年間の経年変化を見ると、平成17年度小中学生の不登校者数は436名(小学生91名、中学生345名)に対し、平成28年度では1078人(小学生265名、中学生813名)と1000人を超えており、過去最多です。不登校になった理由としては、無気力、不安など情緒的混乱やいじめを除く友人関係をめぐる問題であったり、親子関係をめぐる問題、中学生では学業の不振も増加傾向です。しかし、それ以外にも、発達障がい特性の知識が乏しい教諭による指導を受けたことで、不登校に陥ってしまった児童生徒がいます。

◆多様な問題を抱えた子供たちに対する、きめ細やかな支援が必要

・発達障がい児・者支援の専門家と教育委員会が連携をし、不登校対策マニュアル作成の再考や特別支援教育の現場指導としての教諭に対する研修会の開催を行うよう強く求めていきます。

・スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの配置拡充とアウトリーチ型の家族支援を実施していきます。

◆不登校の子ども達の学習の場を提供しよう！

現在、民間のフリースクールの平均額は入会金では5万3千円、授業料に関しては月3万3千円です。

・不登校の家庭にいち早くフリースクールの情報を提供し、フリースクールの学費の一部を援助するなどの学習支援を強く区に求めていきます。

# る。平成も、令和も。

## ～人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ足立区を～

## 自分らしく生きることができる足立区をつくる

～2018年足立区議会第4回定例会での政策提言～

### 提案 がん患者、がん体験者、そしてそのご家族が必要と考える支援を進めていきます

◆問題はがんを患ってから「いかに生きるか」そして「いかに支えていくか」

●足立区「がん対策アクションプラン」「がん対策推進条例」の制定を求め、総合的ながん対策の推進を求めていきます。

◆長谷川たかこは、足立区版マギーズ東京を目指す！

2016年江東区に「マギーズ東京」が新設されました。がんに悩む人が、不安をやわらげるカウンセリングや栄養、運動の指導が受けられ、仕事や子育て、助成金や医療制度の活用についてなど生活についても相談をすることができます。

●看護師、心理士、栄養士などの専門家が揃う相談窓口を設けて、リハビリテーション支援のほか、外見の変化に対するアピアランス支援なども対応できる施設をこの足立区にも創るよう強力に区行政に働きかけていきます。

## 支え合いながら安心して暮らせる足立区をつくる

～2019年3月予算特別委員会などでの政策提言～

### 提案 個々人や家族の特性に応じた区民サービスを

◆中国残留帰国者が集える場所を働きかけ

●年齢的にも高齢者の皆さま方のため純粋に日本語の学習というよりも、当人のケアや周囲の人とのコミュニケーションなどを目的とした、集える場を区内に増やしていくよう積極的に区に働きかけていきます。

◆ごみ戸別訪問収集事業の条件緩和を要望

核家族化が進む中、地域、家族とのつながりが希薄になっている高齢者の孤独死や孤立死が社会問題化している中で、訪問してごみを収集することは、安否確認にもなり、安心・安全な生活の確保にもつながります。

●そこで、ごみ戸別訪問収集の対象者の枠を広げ新規で広く募集を開始するよう、区に求めていきます。

## 魅力ある足立区をつくる ～2019年3月予算特別委員会などでの政策提言～

### 提案 弱い立場の人でも生活に困らない地域に

◆買い物弱者に多様な交通手段を

足立区には、交通手段がないと買い物が難しい地域が数か所あります。近所に日用品を取り扱うスーパーがない地域では大きな負担となっています。

●足立区が企業と連携をすることで、この問題を解決したいと思います。例えば区有地（学校統廃合跡地など）などに商業施設を誘致するよう、区行政に働きかけていきます。

●交通過疎地にコミュニティバスを走らせ、多様な人の移動を支える交通環境をつくっていきます！

### 提案 災害時、誰もが助かる足立区をめざす

◆河川の堤防決壊対策

被害を最小限に防ぐためにも、自治体が発令する「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」などの発令のタイミングが重要です。

●避難指示の分かりやすく具体的な数値を決め、柔軟に運用できる発令基準の策定を求めていきます。

●要援護者や車などの移動手段を持ち合わせていない人に対する避難先として、民間マンションの階段や踊り場、屋上などを開放してもらうよう働きかけ、区外への緊急時の避難場所の確保も求めていきます！

### 提案 歩いて楽しい足立区をつくる

◆エリア毎の街づくりで魅力アップ

●綾瀬や西新井地区に、図書館を新設するよう働きかけていきます。

●綾瀬の旧区民事務所跡地に保健所の移設、マリアージュ跡地にみんなが憩えるレストラン街やホールの設置を求めていきます。

●梅島、竹ノ塚、千住、江北エリアや花畑、六町、北綾瀬では、歩いて楽しい足立区となるよう、回遊性の確保や区有地を活用した賑わいある拠点づくりなど、多角的な視野で魅力的な街のデザインを提案し、区に働きかけていきます。

### 提案 高精度測定機導入 弱視の早期発見に

◆3歳児健診で見逃される弱視問題

全国的にも、3歳児健診の視覚検査で異常なしと言われた子ども達が小学校入学前後の健診で弱視が見つかるケースが相次いでいます。

子どもの視力は1歳で0.2前後、4歳5歳で1.0に達するといわれており、ほぼ6歳児までに完成するとされています。3歳児健康診査において異常が見逃されると治療が遅れ、十分な視力が得られなくなります。視覚感受性期は6～8歳くらいまでで、それ以降は治療には反応せず、一生弱視となってしまいます。目を細めたりして見てわかる症状もありますが、症状が何もない場合も多く見受けられ、親も異常に全く気付きません。3歳児健診での家庭で行う視力チェック（ランドルト環）の簡易キットのみでは、弱視を見逃してしまいます。

足立区の現在の制度を補完する機能としてオートレフラクトメータを用いた高精度な視力検査を3歳児健診で行い、弱視を未然に防ぐ取組みを早急に行うよう、区行政に強力に働きかけていきます！

### 提案 医療的ケア児者・家族支援につとめる

全国的にみると平成27年度　約1.7万人、人工呼吸器児の人数は約3千人とされています。

◆医療的ケア児の家族支援

医療的ケア児の親御さんからは、家族が休めない（親が疲労困憊状態）、相談するところがない、地域に居場所がない（ベビーカーで行けて話せる場所がない）との声があがっています。

●医療的ケア児者の親に対するレスパイト事業を区として早急に立ちあげるよう求めていきます。

●東京女子医科大学東医療センターで一貫した支援ができるよう、アウトリーチ型の在宅医療支援と子どもが就学した際の学校現場での子どもの看護管理ができる体制を整備するよう強く働きかけていきます。

### 提案 区役所本庁舎に一時託児施設を要望

◆一時保育の整備を進めます！

現在、保育園の待機児童問題が全国的にも喫緊の課題の中、夫婦共働きでも、お互いに仕事の働き方を工夫し見直す事で、急を要するときには一時保育を活用しながら、自分たちの力で家庭保育をしている家庭も少なくはありません。

また、月齢が低ければ低いほど一時保育の枠がなく、0歳児は1日一人しか預からない園もありま

す。実質、制度があっても利用できない状態です。

●月齢が低い乳幼児に対応できる全ての認可保育園で、生後57日目以降の乳幼児の一時保育を整備するよう求めていきます。

●本庁舎北館に一時保育・託児所を整備するよう働きかけます。

●本庁舎内にある既存のキッズコーナーに保育士の配置を求めていきます。

# 長谷川たかこの実績（一部抜粋）

## みなさんの声を区政へ着実に届けています

### 中国残留帰国者

足立区は中国残留帰国者の居住者数が全国で1，2番を争う多さです。長谷川たかこの議会提案とその取組みにより以下の内容が実現されました。

1．帰国者の方が編集した中国残留帰国者情報誌「故郷」が定期的に作成・発送されています。
2．地域の皆さんとの交流会（区内の自治町会が中心となって実施）…鹿浜・梅田・青井・東保木間・保木間・中央本町などで実施。
3．中国語版「あだち防災マップ＆ガイド」が150世帯に郵送されました。
4．中国残留帰国者向けの防災訓練を実施（中央本町にて）

### 病児保育が東部地域病院に開設

長谷川たかこの提案により、2019年2月「病児保育」が東部地域病院で開設されました。保育施設や幼稚園に通所している生後6か月から、区内に住所を有する小学3年生までの児童を対象として、2千円（昼食、おやつ、飲み物は各自持参）で利用できます。

### 不妊症サイト：獨協医科大学こうのとりラーニングの開設

妊活は女性だけでなく、男性も積極的な協力が必要です。男性にも不妊症に関する知識を得てもらうために「獨協医科大学こうのとりラーニング」を2017年7月足立区のHPより活用できるようにしました。妊娠にまつわる基礎知識をこのラーニングで取得して、夫婦ともに男性の身体や不妊のことについて十分な知識を得ながら、妊活を乗り切っていきましょう。

### 妊産婦や乳児を守る防災対策

胎児・乳児と妊産婦の生命は一体であり、母子に配慮した防災対策は子どもを守る最大の対策につながります。議会提案と取組みで以下が実施されます。

1．「あだち防災マップ＆ガイド」「あだち子育てガイドブック」に「妊産婦の防災ハンドブック」が盛り込まれることになりました。
2．妊産婦・乳児専用の救護所の設置がされます。
3．ハイリスクの妊産婦・乳児の搬送先として、東京女子医科大学東医療センターとの連携が図られます。
4．他区の医師会（産婦人科医）や東京都助産師会との連携が図られます。

### 「足立区あんしん子育てナビ」が拡充

2018年から足立区版「あんしん子育てナビ」の機能拡充を実現させました。予防接種スケジュールカレンダー表示や赤ちゃん成長記録が追加され、妊娠期・子育て期の疑問などを解決できるサイトにしました。

### 足立区役所本庁舎：音声誘導装置導入

長谷川たかこの政策提言により、2013年から足立区役所本庁舎玄関前に目の不自由な方のための音声誘導装置が設置されました。目の不自由な方は、専用の受信機で音声ガイドを受けることにより、現在、自分がどこにいるのか、どちらに向かって歩けばいいか、知ることができます。

### 教科書のユニバーサルデザイン化が実現

足立区の取組みの中で、区内小中学校の現場の先生の色覚障がい児に対する認知度が低いこと、また、学校内での取組みがあまり進んでいないことなどや教育分野での取組みの重要性を何度となく議会で提案をしているものの、一自治体では、教育分野での具体的な取組みに限界を感じました。2011年、当時の笹木竜三文部科学副大臣のお取り計らいで教科書会社との会談が成功。直接、教科書会社に対し、問題提起や提案をさせて頂きました。長谷川たかこのこの取組みにより、現在ではほとんどの教科書会社がカラーユニバーサルデザインを導入しています。

### ファミリー学級で母乳育児指導が開始されました

足立区での母乳育児の指導は毎年２回のみ。長谷川たかこの提案により2017年４月より、妊婦さんたちが受講するファミリー学級で母乳育児の指導が導入されました。今後もさらなる拡充を求めていきます！

### MR ワクチン（麻疹・風疹混合ワクチン）

2017年長谷川たかこの度重なる議会提案により、未接種児へのフォローアップ制度として、麻疹・風疹混合ワクチンを無料で2回接種可能としました。足立区は都内ワースト1でしたが、このことによりトップクラスの制度へと引き上がりました。『区内在住、麻しんまたは風しんにかかったことのない2歳～高校3年生相当の年齢を対象に、2回を限度に任意接種の公費負担を行う』ことが実現しました。

### 子どもの養育支援

長谷川たかこの提案により、2015年4月より離婚を考えている区民に対し、足立区として公益社団法人家庭問題情報センター（FPIC）のチラシ3種類（養育費・面会交流の内容のパンフレット）を配布。同年、長谷川たかこが弁護士と共に協議し、養育費や面会交流の取り決めを促す「養育プラン」を作成し、離婚届が提出された際に窓口でこれらを直接手渡しし、子どもの利益を最大限優先した行政主導の支援が始まっています。

### 怒鳴らない子育て講座が導入されました

子どもに伝わる表現方法のスキルを学ぶ事業を通じて、親も子供も成長しながら全ての子ども達が心豊かに育つよう、子育てスキルを行政が提供する仕組みを提案し、2015年から足立区で導入されています。

### 東京藝術大学名誉教授 六角鬼丈先生デザインの公衆トイレ ファイブベインズへの刻銘

2016年12月綾瀬駅前の東綾瀬公園・ハト公園のトイレ「ファイブベインズ」に作者と由来等が書かれた看板の設置を求め実現しました。

### 都市農業公園のレンタサイクル導入

区の担当部署と協議し、放置自転車の有効活用について検討。長谷川たかこの提案で、2014年4月から区が回収した引き取り手のない放置自転車を活用して都市農業公園を起点としたレンタサイクルの事業が新設されました。

### 綾瀬東口自由通路の通行マナー

綾瀬駅東口の自由通路を自転車に乗ったまま通過する人が多く、大変危険とのお話しを受けて、地元の方と相談をし、区の担当者と協議した結果、鉄道会社 と足立区が協力し、ストップマークを付けてもらいました。みんながマナーを守り、周りの人への気遣いが出来る、注意書きの看板すら要らなくなる街をつくっていきたいと思います。

### 綾瀬駅前イトーヨーカ堂＆東急ストアー駐輪場の設置

綾瀬駅前イトーヨーカ堂の駐輪場に2008年11月にラックが付きました。これも長谷川たかこの取組みの一つ。

以前はイトーヨーカ堂前の歩道に駐輪している自転車がたくさんはみ出していて、歩行の際に大変危険であるとの意見がたくさん寄せられていました。土木部の担当課長とも相談をさせて頂き226台のラックを取り付け、駐輪場が整理されました。また、綾瀬の東急ストアーの自転車駐輪場のラックも同様です。

### 公契約条例

長谷川たかこの度重なる政策提案により、2013年、公正、公平な入札・契約制度を確立し、安全かつ良質な事務、事業の執行を確保し、地域経済の活性化と区民福祉の向上に寄与することを目的とした公契約条例が制定されました。

### 六町駅前「安全安心ステーション」設置に向けて

地元商店会、自治会・町内会など地域の皆さんの防犯活動の拠点づくりを検討して頂くよう、2012年の本会議で提案。その後、2017年3月から交番に代わる防犯機能を有する施設「安全安心ステーション」の設置に向けた検討を足立区と地域の町会を中心に開始しています。


ご意見・ご要望は…

長谷川たかこ

活動や政策の詳細はホームページをご覧ください

https://takahase.weblogs.jp

長谷川たかこの政策2019

ご意見・ご要望はＥメールへ

info@takahase.com



このレポートは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構*のアドバイスのもと、色覚の個人差を問わずご覧いただけるようカラーユニバーサルデザインに配慮して作成しました。（ロゴやイラストは対象外）
*カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）とは、色覚バリアフリー/カラーユニバーサルデザインへの配慮を啓発する活動を行うことを目的に2004年に設立されたNPO法人です。